

移動芸術劇場

KCHIKYO
市響

1978. 6. 4

P.M. 1:30

神崎中学校体育館

主催 千葉県教育委員会
神崎町教育委員会
千葉交響楽団協会
市川交響楽団協会

プログラム

市川交響楽団演奏

金子建志指揮

管弦楽

大学祝典序曲ブラームス

楽器紹介

「日本のうた」牧野一男編

箱根八里

月の砂漠

どんぐりころころ

蛙の笛

きゆつきゆつきゆつ

お山の大将

見てござる

里の秋

————— 休 憩 —————

交響楽

交響曲 第七番ベートーヴェン

第1楽章 ポコ ソステヌート—ヴィヴァーチェ

ピアノと管弦楽

ピアノ大楽勝美

ピアノ協奏曲 第一番チャイコフスキー

アレグロ・ノン・トロツポ・エ・モルト・マエストロソ

アンダンティーノ・センブリーチェ

アレグロ・コン・フォコ

全員合唱

3部輪唱「山道」スイス民謡

岡本敏明作詞

紹介



金子建志

市響—金子建志。その結びつきは1972年に始まる。73年に常任指揮者。以後一貫して、市響は彼の棒のもとに成長していった。

我々が要求した一見無謀と思えるレパトリーも彼の努力と熱意でこなしてきた。彼あつてのことである。ステージで振ることは勿論、練習場でのトレーナーとして、あくことなき音の探求者として、毎土曜日の夜、そこに彼の姿がある。オケの仲間達が何かの都合で出られなくとも一。出席率No.1オケの皆さん恥ずかしくないか。と云うわけで、我々に

とってまことに得難い人であります。この有難味を我々団員はふと忘れることも多々あると反省するわけです。彼との練習でのつきあいは楽しいものです。我々に絶対、強制はしない。じつと我慢の子、あるいはその間、彼自身の心の葛藤があるのかも、その証拠に時々、メガネの奥から強烈な皮肉をとばす。我々アマチュアのなんたるかをわきまえてくれています。秋にはマーラーの大作「巨人」。彼は練習で、何くわぬ顔で乱れぬ棒を振ってくれることでしょう。

宜しくね 建志さん。

余り知られていない番組ですが、NHKFM千葉で、毎週1回（主として第3土曜日）夕方5時から、クラシックリクエストと云う番組を担当しています。師匠（柴田南雄）ゆずりの博学（雑学？）はしばしば傾聴に値します。尚、他に、NHKFMの全国ネット20.05分からのクラシックアワーにも度々出演されています。本年1月に京都会館における京都交響楽団の一連の青少年コンサートに出演されタクトを振りました。千葉高から東京芸術大学楽理科卒。作曲を柴田南雄。指揮を斎藤秀雄の各氏に師事。現在尚美音楽院講師も務めています。住所は習志野市藤崎3-28-11

曲目解説

「大学祝典序曲」

ブラームス

ブラームス(1833~1897)は、1880年にこの「大学祝典序曲」OP 80を、その前年に、プレスラウ大学から名誉博士号を贈りたいとの、申し出があり、それを受けるとともに、それに対する感謝の意をこめて作曲しました。そこには四曲の学生歌のメロディがとりあげられています。ブラームス自身もこの曲を「学生歌の、スッペ風の接続曲」と言っていますし、又「悲劇的序曲」の深刻さと対比させて、「笑いの序曲」とも言っています。しかし「接続曲」風の多主題の作品であるにもかかわらず決して通俗的な散漫さにおちこまず、ごく自然で、ひきしまった主題の連結をみせている点では見事な構成ですが、反面「笑い」に徹しきれないブラームス自身の気まじめさがうかがわれます。

ここに使われている学生歌は、ブラームスがかつて、ゲッティンゲンで接した学生達から聞きおぼえていたもので、次の四曲のメロディをとっています。

「われらは、すばらしい学び舎をたてた。」 「国の父」 「新入生の歌 — かの高みより来たりしもの。」 「だから愉快にやろうじゃないか。」

曲はアレグロ、小短調で、以上の学生歌のほか、曲頭に出る主要主題部のいくつかの要素を生かして、一応ソナタ形式風に、提示部、展開部、再現部、を備えています。しかし、その間に、上述の学生歌がさまざまにあしらわれていますから、構成上重苦しさは感じられません。その上、それぞれの学生歌が、配慮のいき届いた楽器の生かし方で、出てくるたびに、それにふさわしい表情であらわれます。「新入生の歌」の楽しさがこの曲のユーモラスな面のクライマックスのようです。

楽器紹介のための「日本のうた」

牧野一男編

この曲はオーケストラの楽器とその簡単な使用方法を紹介する為に作られたものです。前奏にひきつづいて名楽器群（弦、木管、金管、打楽器）毎に、最初は独奏で、つぎに合奏で演奏する事により紹介されます。原曲はみなさんいづれもおなじみの日本の曲です。

- | | | |
|----|-------------------|--------|
| 1. | 箱根八里 | 滝廉太郎作曲 |
| 2. | 弦楽器のお話 | |
| | 独奏及び楽パート合奏 月の砂漠 | 佐々木すぐる |
| | ピッチカート奏法 どんぐりころころ | " |
| 3. | 木管楽器のお話 | |
| | 独奏及び各パート重奏 かえるの笛 | 海沼 実 |
| | 木管全員合奏 きゅっきゅっきゅっ | 芥川也寸志 |
| 4. | 金管楽器のお話 | |
| | 独奏及び各パート重奏 お山の大将 | 山田 耕筈 |
| | 金管全員合奏 見てござる | 海沼 実 |
| 5. | 打楽器 | 牧野 一男 |
| 6. | おしまい(全員合奏) 里の秋 | 海沼 実 |

「交響曲 第七番 イ長調」

ベートーヴェン

第七番はよく第八番と対で語られます。ベートーヴェンは、スケールの大きい第七番を「大交響曲」、小じんまりした「第八番」を小さい方と愛称していて、どちらかと言うと、小さい方の曲に愛着を感じていたと言われてはいますが、世評はその反対で、大きい方の第七番に、人気が集まり、ベートーヴェンを大いに残念がらせたということです。

第七番の当時の評判はまことに圧倒的なもので、1813年12月8日、ウィーン大学の講堂で催された発表演奏会の時から、第二楽章のアレグレットが、反復演奏を要望されるほどの人気を呼びました。このアレグレットの楽章は今日も「不滅のアレグレット」と呼ばれ、全曲中の最上の聴きどころとして愛好されています。

ワグナーは第七交響曲を「舞踊の聖化」と呼び「メロディーとハーモニーは、あたかも人体組織のごとく、活気あるリズムの形象をもってよどみなく流れ……」と、称えています。本当にこのことばのように、それ以前の交響曲のどれにも増して、リズムが支配的な要素を占め、通例の歌唱風な緩徐楽章に代えて律動的なアレグレットが第二楽章に置かれています。第一楽章の長大な序奏部も、ヴィヴァーチェの主部も、それらの真の主題は一貫したリズム型に求められると言っても言いすぎではありません。

第一楽章はポコ・ソステヌート（イ長調 4分の4拍子）の極めて序奏部を持って開始され、それ自体二つの主題を備えて独立の楽章に近い様相を呈しています。しかし楽式は自由でそのまゝ主部のヴィヴァーチェ（イ長調 8分の6拍子）に接続します。最後の10小節は序奏部のコードであると共に主題のリズムを導き出す準備の部分にもなっています。

山 道

(輪 唱)

作詞 岡本敏明
スイス民謡

たいへんな やまーみち たいへんな やまーみち
(やまみち)
ヨッ コラ ショ ヨッ コラ ショ ヤッ コラ ショ ヤッ コラ ショ
じい さん まっとくれよ わ しゃ かつても の ぼれ ない

曲 目 解 説

ピアノ協奏曲 第一番

チャイコフスキー

チャイコフスキーはピアノ協奏曲を全部で三曲書いていますが、その中でもこの第一番はあらゆるピアノ協奏曲の中で、最もしばしば演奏されるものになっています。この協奏曲の最初の部分で、ピアノの豪放的な和音がオーケストラの奏する主題と共に圧倒的な力強さで奏されるところは、素晴らしいものです。またチャイコフスキー独特の斯拉ヴ的な性格が、時には線の太い表現となり、時には繊細な美しさをとるなどの豊かな表現力は聞き手を魅きつけてはなさないものがあります。

作曲されたのは、チャイコフスキー34才の時 1874年でこの年の11月から12月の一ヶ月の間に、一気に書き上げられました。オーケストレーションは翌1875年2月に完成されます。

この曲について、チャイコフスキー自身が、メック夫人にあてた手紙に書いているところによると、彼は最初、当時モスクワ最大のピアニスト、ニコライ・ルービンシュタインに、曲の技術上の助言を乞うたのですが、ルービンシュタインは、チャイコフスキーが弾いている間終始冷たい沈黙を続け、最後にこの曲は、ほんの数ヶ所よいところがあるほかは、全く破棄するか、全面的に書き直す必要がある、と述べたそうです。

チャイコフスキーはこれに大変憤慨して、一音たりとも改めないと答えて、その場を去りました。彼はこの楽譜をこんどは、ドイツの指揮者でピアニストでもあった、ハンス・フォン・ビューローに見せたところ、ビューローは、この曲の独創性を大変称讃した上、丁度アメリカへ演奏旅行に出るところでしたので、この曲をもってアメリカへ渡りました。そして作曲されてから一年後の1875年10月25日、ボストンで初演を行い、非常に好評をもってむかえられました。

献辞はこのようないきさつから、ハンス・フォン・ビューローに宛てられましたが後に、ニコライ・ルービンシュタインも、自分の非をさと、しばしば演奏するようになった、ということです。

第一楽章 アレグロ・ノン・トロppo・エ・モルト・マエストーゾ、自由なソナタ形式。

第二楽章 アンダンティーノ・センブリーチェ、三部形式。

第三楽章 アレグロ・コン・フォコ、ロンド形式。

~~~~~ 今年度活動予定 ~~~~~

昭和53.	4. 29	市川市美術会開会式賛助	於市川市民会館
	5. 5	第125回市響「第3回ジュニアオーケストラ演奏会」	於市川市民会館
	6. 4	県民移動芸術「交響楽の集い」	於神崎中
	11	第126回市響「交響楽の夕べ」	於市川市民会館
	25	市内小中学生のための管楽器クリニック	於市川小
	7. 9	県民移動芸術「交響楽の集い」	於船橋市小木ヶ谷小
	7. 23. 29 ~ 30	第6回アマ・オケ 「フェスティバル」参加	於茨城県民文化センター
	8. 27	第127回市響「納涼コンサート」	於市川市民会館
	9. 17	県民移動芸術「交響楽の集い」	於佐原四中
	10. 22	第128回市響千葉県芸術祭参加「市川交響楽団コンサート」	於船橋市民文化ホール
	11. 5	小学生のための交響楽	於浦安南小
	12	第129回市響市文化祭参加「合唱の集い」	於市川市民会館
	12. 10	第130回市響市文化祭参加「ファミリー交響楽コンサート」	於市川市民会館
昭和54.	1. 15	市川市成人式「祝賀演奏」	於市川市体育センター
	2. 16	市民芸術講座「洋楽の部」	於市川市社教会館
	3. 18	第131回市響「室内オーケストラの午後」	於市川市民会館

予 告

文化庁助成

第6回

全国アマチュアオーケストラ フェスティバル茨城大会

7月30日(日)午後2時
茨城県民文化センター

シェスタコピッチ 交響曲5番
シューベルト 未完成交響曲

演奏 JAOフェスティバル交響楽団
JAOジュニア交響楽団
指揮 外山雄三、外

入場料 1,000円

市川交響楽団協会

当協会は昭和26年7月に発会以来27年の歩み続け、千葉県内に健全な純音楽の普及と啓蒙をはかり、クラシック音楽の愛好者層を増し、平和な潤いのある生活がみちあふれる事を願う文化団体で、然も音楽の中で最も強力に共鳴感を起させるシンフォニックな楽団の育成と、その演奏活動の実践を容易ならしめるための社会教育団体でありまして、利益を得る団体でも、ただ自分中心の、趣味だけを満足させるクラブでもありません。自分達の喜びを少しでも多くの人に分け与えようとする奉仕団体でありまして、同じ趣旨の千葉交響楽団協会の中心的存在であります。又、当協会には、市川交響楽団、市川混声合唱団、市川交響吹奏楽団、市響ジュニアオーケストラの4楽団によって組織されております。

会 長	泰道 照山	
理 事 長	村上 正治	
理 事	今井 正	川崎 千春
	岸本 義一	古賀 米吉
	渋谷 寿光	高橋 国雄
	杉本郁太郎	村岡 元一
監 事	富田 英夫	泰道 三八
評 議 員	飯島藤十郎	大久保康雄
		他23名
顧 問	出光 昭介	臼井 莊一
	片岡 直令	坂齋梅三郎
	友納 武人	鳥海 一郎
	村岡 信一	三木 春逸
	渡辺一太郎	他23名
参 与	伊藤恒太郎	大木 正興
		他 110名

事務局長 熊谷 信昭
事務局次長 伊藤 順夫
会 計 横田 朝之

会員募集

当協会の社会教育活動を円滑にして下さる協力会員の事で、会員は案内通知を受けますし当協会主催の行事には入場無料、特別演奏会は半額です。

維持会員 年 2,000円
賛助会員 年10,000円以上

団員募集

入会金 1,000円 会費月 500円
各楽団を兼ねる事が出来る

市川交響楽団練習

市川小学校講堂(国道沿い)
市川駅北口より国道西へ徒歩4分
京成真間駅西口より徒歩8分
毎土曜日午後6時20分

市川交響吹奏楽団練習

宮田小学校講堂(北越通り)
市川駅南口より東へ徒歩3分
京成真間駅南口より徒歩8分
毎金曜日午後6時30分

市川混声合唱団練習

自然幼稚園(消防署本部裏)
市川駅北口より国道東へ徒歩3分
京成真間駅東口より徒歩2分
毎木曜日午後7時
技量は問題にしません

市響ジュニアオーケストラ練習

市川市社会教育会館
市川駅北口より国道西へ徒歩3分
毎日曜日午後1時より4時まで

事務局 市川市新田2-33-10

TEL 0473(23)1619